The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『主婦之友』にみる大正期の子供服について
Author(s)	岡林, 裕子
Citation	デザイン理論. 2004, 44, p. 162-163
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52898
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『主婦之友』にみる大正期の子供服について

岡林裕子／大谷女子短期大学

大正期には「生活改善運動」として家庭生活の合理化，欧米化が唱えられ衣服の洋装化が勧められた。一般家庭への衣服の洋装化の普及には当時の婦人雑誌が果たした役割が大きいと考えられる。

そこで本研究では，実用的な家庭生活情報を中心に編集された大正6年発刊の『主婦之友』より，洋装化が勧めやすかったであろう子供服について主に製作面より検討することとした。対象とした資料は雑誌『主婦之友』のなかで「主婦之友代理部の家庭重宝品新聞」にて紹介，販売され，さらに記事で仕立方が掲載された下着を含む図１～７（販売品①～⑨）の９点である[1]。

販売された子供服

図１（①）

図２（②）

図３（③）

図４（④）

図５（⑤）

図６（⑥）

図７（⑦⑧⑨）

代理部の家庭重宝品新聞は通信販売のようなものであり，巻末の誌面に掲載されていた。①～⑨の子供服が家庭重宝品新聞において，販売されていた内容は表１にまとめた。これらの子供服は，記事で仕立方が掲載された後に代理部で販売されており，読者を通じて普及されていたと推察する。なかでも掲載期間の長い①②⑤の下着や③④の男女児服については特に普及していたと思われる。

子供服に関しては「今の婦人に洋服というのは難しいが，子供は洋服時代となるので，母親に洋服の知識を持ってもらいたい。」[2]と洋装化を勧めている。

さて，この９点の子供服が実際にどのような構成をしていたのかを知るため，本発表では記事に従って型紙を作成，立体化し再現したものを展示した。（写真１～９）

再現した結果わかったことは，まず布地を裁断するには，現在では当然のこととして捉えられているが，型紙を作成する必要があるということ。型紙を作成することは，当時着用されていた和服ではコートの衿を裁断するなど限られた場合だけであった。

また，型紙は身近にある新聞紙を使用して作成するように指示されていることが多い。

型紙の特徴としては③「男児の遊戯服」のように前後の身頃と袖がそれぞれ独立し，傾斜のある洋服の要素が入ってきている場合と，④「女児用の夏用服」のように前身頃も後身頃も袖も一つに繋がった直線的な和服の要素を引継いだ場合とに大別される。（図９）

裁断する際の縫代は型紙内に含まれる場合と，別に縫代をとる場合とがあるが，①～⑨の子供服は縫代が含まれていた。

その他，製作面から気づいたこととしては，

・胸囲からの割出し寸法ではなく指示された寸法で型紙を作成するため袖，衿，身頃の縫合せ箇所に寸法の違いが起こりギャザーやタックで処理をしていたと考えられる。

・ズボンの場合，腹部をゴムで締付けるのは

表１「主婦之友代理部の家庭重宝品新聞」にて販売され，記事にも仕立方が掲載されていた子供服（大正期）

代理部品名	代理部掲載期間	価格　（巻−号）	送料
① 和洋の長所をとった子供の寝冷え知らず →(6巻6号~)子供寝冷知らず	5巻7号～9巻12号～ T10−7月～T14−12月～	極上伊太利ネル製:4.5歳用(丈1尺8寸)(5-7~)1円30銭→(7-2~)1円20銭、7.8歳用(丈2尺)(5-7~)1円60銭→(7-2~)1円50銭、10歳前後用(丈2尺5寸)(5-7~)2円→(7-2~)1円90銭	各(5-7~)12銭、満鮮(5-7~)45銭、台樺(5-7~)30銭→(7-5~)45銭
② 和洋服兼用の女児下着 →(9巻6号~)女児洋服下着	5巻12号～9巻12号～ T10−12月～T14−12月～	上等伊太利ネル製:4.5歳用(5-12~6-12)1円90銭→(7-2~)1円80銭、7.8歳用(5-12~6-12)2円20銭→7.8歳用(尺8)(7-2~)2円、9歳用(7-2~)2円30銭、10歳前後(5-12~6-9)2円50銭 、上等キャラコ製:4.5歳用(6-9~)1円30銭、7.8歳用(6-9~)1円50銭	各(5-12)12銭、満鮮(5-12)45銭、台樺(5-12)30銭→(7-5~)45銭 *(6-9~)3枚まで同じ
③ 男児の遊戯服	6巻9号～6巻12号 T11−7月～T11−10月	型紙:3.4歳用と5.6歳用の2種で1組(6-9~)35銭、仕立てたもの:上製:3.4歳用(6-9~)7円50銭、5.6歳用(6-9~)9円、並製:3.4歳用(6-9~)4円、5.6歳用(6-9~)5円	型紙(6-9~)2銭、内地(6-9~)12銭、満鮮(6-9~)45銭、台樺(6-9~)30銭
④ 女児用の夏洋服	6巻9号～11号、7巻6号～7号 T11−7月～T11−9月、T12−6月～T12−7月	型紙:1組(6-9~6-11,7-6~)20銭、仕立てたもの:7.8歳用(6-9~6-11,7-6~)5円50銭、4.5歳用(6-9~6-11,7-6~)4円50銭	5着まで:内地(6-9~6-11,7-6~)12銭、満鮮(6-9~6-11,7-6~)45銭、台樺(6-9~6-11,7-6~)30銭、型紙(7-6~)2銭
⑤ 子供用防寒下着	7巻2号～7巻9号 T12−2月～T12−9月	地質:黒毛織子:大(9,10歳用)(7-2~)3円80銭、小(7,8歳用)(7-2~)3円50銭	内地(7-2~)12銭、台樺鮮満(7-2~)45銭
⑥ 最新流行少女ドレス	7巻8号～7巻9号 T12−8月～T12−9月	白のオーガンジー:12,3歳用(7-8~)11円、7,8歳用(7-8~)10円、下着(キャラコ製):大(7-8~)2円60銭、小(7-8~)2円30銭、 型紙1組(7-8~)4?銭	各:内地(7-8~)18銭、台樺満鮮(7-8~)45銭、型紙(7-8~)2銭
⑦⑧ 女児用の夏遊戯服	8巻9号 T13−9月	キャラコ製:4,5歳用(8-9)2円50銭、ギンガム製:4.5歳用,6.7歳用(8-9)各2円、ボイル製:4.5歳用,6.7歳用(8-9)各3円50銭	(3着まで):内地(8-9)12銭、海外(8-9)45銭
⑨ 男児用夏の遊び着	8巻9号 T13−9月	ギンガム製:5.6歳用(8-9)2円80銭	(3着まで):内地(8-9)12銭、海外(8-9)45銭

記事のタイトル	掲載巻号	著者	掲載型紙年齢
「和洋の長所を集めた新式の寝冷え知らず」 −愛児の寝冷え予防のために御用意下さい−	5巻6号 T10−6月	和洋裁縫女学校洋服科教師 吉田壽代	7，8才
「和洋服兼用の女児下着の仕立方」 −特に過学中のお子さん方のために大そう便利な下着です−	5巻11号 T10−11月	カナリヤ仕事会 杉山つね子	7，8才 女児用
「軽快で衛生的な遊戯服の仕立方」 −これを御覧になれば誰方にでも出来ます−	6巻7号 T11−5月	新装普及会 福岡やす子	5.6才 男児用
「子供の新型夏服の仕立方」 −仕立は簡単ですが恰好は大そう可愛いものです−	6巻8号 T11−6月	和洋裁縫女学校洋服科教師 吉田壽代	7,8才 女児用
「防寒用の子供洋服下着の仕立方」 −子供の洋服は下着に注意すれば温かです−	7巻1号 T12−1月	新装普及会 福岡やす子	6,7才用 主に女児用
「経済で上品な少女ドレス仕立方」 −子供の晴着は地質よりも型の選択が一番−	7巻7号 T12−7月	高橋美代子	13,14才 女児用 パーティードレス
「可愛らしい子供の遊戯着の仕立方」 −型は新式の可愛らしいもので仕立はいづれも簡単です−	8巻8号 T13−8月	関東女学校教師 吉田壽代	4,5才 女児用 / 6,7才 女児用
「五六歳用の男児用遊び着の作方」 −着心地がよくて便利で遊び着としては理想的のもの−	8巻8号 T13−8月	関東女学校教師 吉田壽代	5.6才 男児用

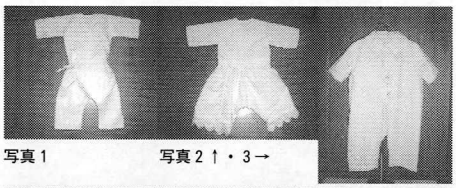
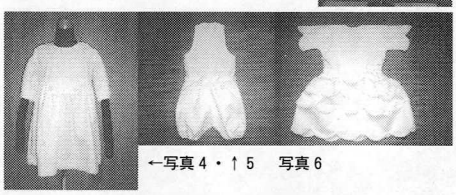


写真１　　写真２↑・３→



←写真４・↑５　写真６

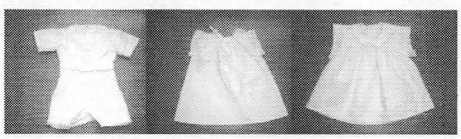
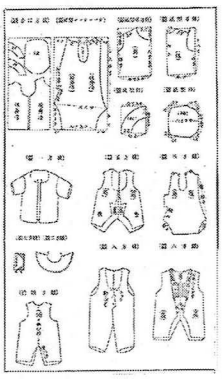


写真７　　写真８　　写真９



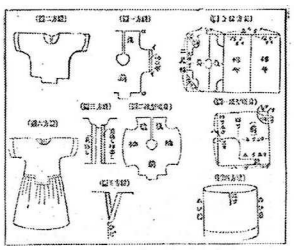


図９　記事に掲載された仕立方図
↑④「女児用の夏洋服」
←③「男児の遊戯服」

よくないとされ，胴部は帯や紐で締め，ボタンで上下が取り外せるようになっている。

・ジッパーがまだ普及していないので，明きの部分はホックやボタンを使用している。

・縫代端の始末には，見返しや斜布が使用され，曲線裁ちの洋服にあわせた縫製が行われている。

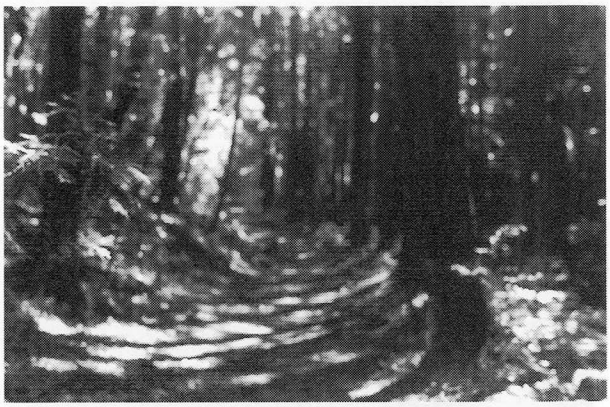
・仕立方の記事には寸法や縫製方法が明確に記載されていない場合がある。

当時記事を見ながらの製作は試行錯誤を繰り返し，各々の裁縫技術で工夫しながら仕上げていたと思われる。

1　図１（５巻５号），図２（６巻１号），図３，４（６巻９号），図５（７巻２号），図６（７巻８号），図７（８巻９号）より

2　新装普及会　福岡ヤス子　大正11年２月15日号（６巻４号）「洋服に就いて知らねばならぬ知識」

カメラを携え，山中奥深く分け入っていくうちに，時として尋常ではない感覚にとらわれ，思わずシャッターを切っていることがある。山を歩く身体感覚とともにあるピンぼけ写真には，通常では見えないものが写っているのか，あるいは通常見えているものが写っていないのか。パネル展では，できる限り大きなサイズで展示し，観る人が近づいたり遠のいたりして，自らの見えるもの，見えないものの感覚を発見していただきたいのであるが，この誌面ではそうもいかない。さらに「カミ空間の予感」は望むべくもないが，写真を大きくする，小さくすることで，写真のピントとはなにかを考えていただければ幸いである。

見えないものを見る
……カミ空間の予感

北辻　稔
㈶大阪都市協会